



CDEJ

Certified
Diabetes
Educator of
Japan

一般社団法人

日本糖尿病療養指導士認定機構

理事長メッセージ

必要とされる“CDEJ（日本糖尿病療養指導士）”

2020年2月、日本糖尿病療養指導士認定機構は、設立20周年を迎えました。この間、脈々と本機構の理念は継承され、着実に発展してまいりました。この大きな節目にあたり、本機構の歴史と伝統を尊重し、その社会的使命を全うするため、意欲あるCDEJと共に一層精進する所存であります。

さて、2000年に設立された本機構は、その翌年より日本糖尿病療養指導士（CDEJ）の認定を開始し、現在の認定者数は全国で約2万人となっています。認定開始以降、CDEJの活躍には目を見張るものがあり、今やその存在なしでは、高度・良質な糖尿病診療の提供は不可能と言っても過言ではありません。また、活動の場はクリニック内に留まらず、地域医療、健康啓発など多岐に及んでおり、我が国における糖尿病医療のあらゆる領域で、リーダーシップを発揮しています。

その半面で、新たな課題にも直面しています。糖尿病を取り巻く医療環境は、設立当時とは大きく様変わりしました。我が国の医療は、地域包括的なチーム医療の構築へと軸足を変えつつあります。糖尿病はその代表的な対象疾患にあげられますが、患者の高齢化および生活習慣や病態の多様化に伴い、療養指導には患者の属性を踏まえた個別化が求められています。薬物療法の進歩は多

くの選択肢をもたらしましたが、糖尿病の予防と管理の基本に生活習慣の適正化があることに変わりはありません。真の個別化を実践するためには、質の高い医療技術はもとより、個々の患者のニーズを把握する確かな見識とそれに基づく多職種の有機的な連携が必要です。この中で、CDEJが果たすべき役割は一層大きくなる一方、その資質は常に問われることになるでしょう。

本機構はこれからも多彩な社会の要請に応えるべく、各職種のCDEJがキャリアを積むプロセスを支援し、その達成度を正しく評価し、次代を担うCDEJを世に送り出す覚悟であります。

残念ながら、突如発生した世界規模のコロナ禍に巻き込まれ、記念すべき年の幕開けは、混乱と自粛で始まることになりました。多くのCDEJがこの困難な局面に、与えられた職責に対して全力を投じていることでしょう。その姿に、心からの敬意を表します。

21年目を迎えたCDEJ認定機構は、時代の変化を踏まえ、親学会である「日本糖尿病学会」「日本糖尿病教育・看護学会」「日本病態栄養学会」とともに、そのブランドに相応しい技能を備えたCDEJの育成を目指して、これからも専心努力してまいります。

日本糖尿病療養指導士認定機構理事長 **宇都宮一典**
東京慈恵会医科大学総合健診・予防医学センター長 / 臨床専任教授



CDEJ（日本糖尿病療養指導士）とは

Certified Diabetes Educator of Japan;CDEJ

CDEJ（日本糖尿病療養指導士）とは、糖尿病治療にもっとも大切な自己管理（療養）を患者に指導する医療スタッフです。

高度でかつ幅広い専門知識をもち、患者の糖尿病セルフケアを支援します。

この資格は、一定の経験を有し試験に合格した看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士に与えられ、2001年3月に第1回認定試験が行われました。CDEJに認定されることは、糖尿病の臨床における生活指導のエキスパートであることを意味します。

糖尿病患者の療養指導は糖尿病の治療そのものである

とする立場から、患者に対する療養指導業務は、わが国の医療法で定められたそれぞれの医療職の業務に則って行われます。

米国、カナダ、オーストラリアなどでは1970年代の初頭より、糖尿病療養指導従事者の専門性と認定について検討され、1986年には資格としてCDE（Certified Diabetes Educator）制度が発足し、実績を積んでいます。医療は日々進歩しますので、CDEJとして認定された後も引き続き実践と研鑽を重ねて最新の知識・技能を身につける必要があります。このため、CDEJの認定制度は5年毎の更新制となっています。



「自宅で暮らしたい」を叶えるために

白井玲華

京都保健会 総合ケアステーションわかば
(京都府)

第 8 回 (2007 年度) CDEJ 取得



現在、私は訪問看護で糖尿病療養者さんと関わっています。

訪問看護を利用する糖尿病療養者

さんは、脳卒中や心不全など複数の疾患を持っており、加齢や認知症などを伴い、自己管理ができなくなり血糖コントロールが悪化してしまうことがあります。

認知症を持つ高齢糖尿病療養者さんに対してインスリン支援目的で、訪問看護が開始となりました。すると「インスリンなんて知らない、そんなことより死なせてほしい」と訪問看護を拒否し困難な状況が続きました。看護師が支援と思っていた実践が、療養者さんには管理されてい



ると受け止めているのではないかと気づき、支援方法を変えました。治療がある生活より、療養者さんの生きがいを尊重した関わりの結果、血糖コントロールの改善と共に生きる意欲が回復し、看護師とも良好な関係に変化しました。在宅医療の現場には、糖尿病療養指導士が極めて少ない現状です。今後、在宅で充実した糖尿病医療ができるよう、CDEJとして専門的知識を生かし、そのひとの生き方に合わせた支援を実践していきたいと思っています。

一人一人に寄り添った糖尿病看護を目指して

萩原 淳

筑波大学附属病院 (茨城県)

第 18 回 (2017 年度) CDEJ 取得



院内の CDEJ の専門性の高さ刺激を受け、資格取得を目指しました。現在病棟・外来の双方で医師や理学療法士、管理栄養士などと連携し療養指導を行っています。患者さんの生活の全体像を把握し必要な情報を各職種へ提供、指導プランの検討に繋げるべく橋渡しの役割を担っています。SAP 療法や FGM など発達するデバイスを患者さんが生活のなかに無理なく組み込み、自分の治療に関心を持って取り組めるよう関わっています。ソーシャルワーカーと協働し退院支援や家族指導も行います。当院では手術を控える方



や妊婦の方、文化の異なる外国の方など様々な背景を持つ患者さんがおり、それぞれが抱える不安などの思いに寄り添いながら必要な支援を展開しています。資格取得後はエビデンスを元に患者さんの生活背景に即した助言や実現可能な目標設定ができ、患者さんの自己効力感に繋がったと感じています。今後学会や研修会を通して研鑽を重ね、意識や行動変容のきっかけとなるような関わりがさらにできるようにしていきたいです。

チームの力で 患者さんの笑顔が見たい

安原みずほ

松江赤十字病院栄養課（島根県）

第1回（2000年度）CDEJ取得



CDEJ更新3回目に予告なく届いた金バッジ、興奮したのを覚えています。15年を振り返るとともに、

これからも頑張ろうと気合が入りました。もうすぐ4回目の更新を迎えますが、この間に会った患者さんから多くのことを学びました。今では後輩たちも増え、毎週1回管理栄養士のCDEJチームカンファレンスを行っています。同じ職種間で、今できる最良の療養指導を考え、全体のチームカンファレンスに臨みます。

私がCDEJを取得した当時は、院内の糖尿病チーム全体が取得を目指して切磋琢磨していました。当然取得するものだという環境の中、先輩方と一緒に試験会場に向かいました。取得後は達成感と自信に満たされま



したが、患者さんの生活習慣に介入することは簡単ではなく、一人ひとり大切に接する必要性を痛感しました。

島根県は、高齢者の多い地域です。地域内でのチーム医療がますます重要になり、LCDEとの連携の強化が課題です。今後取得を目指す方へ、患者さんが笑顔になれるよう、一緒に力を合わせましょう。

患者のよき理解者となり、 患者が実践できる指導を 目指して

服部文菜

三重大学附属病院 栄養診療部（三重県）

第15回（2014年度）CDEJ取得



当院での疾患別の栄養指導の中で糖尿病は、年間約1500件と最も多

い件数となっています。私は入院、外来栄養指導に携わり8年目ですが、初めて担当した栄養指導も糖尿病の指導でした。患者さん毎に生活環境や調理技術、食事療法に対するモチベーションや療養の順守度は全く異なります。理想を押し付けた栄養指導ではよい効果が得られないと痛感し、自身のスキルアップのために2年の経験を経てCDEJを取得しました。

取得後は、患者さんの心理や行動に配慮し、個々の目標に近づけるような指導を心がけています。また医師、看護師、薬剤師、検査技師などで構成された「CDEの会」に参加



することにより多職種間で意見交換をする機会が増え、指導内容の共有や連携を円滑に行えるようになりました。「CDEの会」では、集団教室の内容の検討や院内共通の指導媒体の作成などを行っています。地域の活動として市民公開講座等での啓発活動にも参加しています。

今後も、日々進歩し複雑化する治療についての知識を高め、指導スキルを研鑽し、患者さんに栄養指導を受けてよかったとだけ思ってもらえる指導を目指していききたいと思います。

他職種との情報共有が 患者さんの不安解消に

大東敏和

広島大学病院 薬剤部 (広島県)

第 10 回 (2009 年度) CDEJ 取得



糖尿病教室を担当することになり、メンバーの看護師さんから、「CDEJ を目指して、患者心理を

めて勉強してみてもいい」とアドバイスを受けたことが、CDEJ 取得のきっかけでした。

現在、広島大学病院では、糖尿病センターに専従していた前施設の経験を生かして、糖尿病治療に詳しい病棟薬剤師として、様々な疾患をもつ患者さんの薬剤管理を担当しています。大学病院では、手術や抗がん剤治療、ステロイド薬を使用した治療が行われ、しばしば、血糖コントロールが乱れます。その際、糖尿病療養指導という視点から、患者心理と向き合い、小さなことでも他職種と情報共有を行うように心がけています。そこをきっかけに、チームの



患者さんへの関わりが一步踏み込んだものになり、患者さんの血糖コントロールに関する不安が解消されていくことを経験し、やりがいを感じます。

地域での活動は、病院薬剤師を主体として、保険薬局薬剤師や他職種と一緒に学ぶ研修会を広島県で立ち上げました。研修会後の懇親会も楽しみの一つになっています。

様々な制約があるからこそ 「自分にしかできない仕事」を

砂川智子

琉球大学病院 薬剤部 (沖縄県)

第 11 回 (2010 年度) CDEJ 取得



糖尿病病棟を担当する薬剤師となったことを契機に、病棟の看護師、管理栄養士と一緒に CDEJ の資格を取得しました。取得後は、他職種

との連携もよりスムーズになり、入院患者への指導をはじめ、生活習慣病チームの一員として外来患者への指導、および病院薬剤師会糖尿病分科会や県内の各種糖尿病団体の世話役としての活動を楽しんできました。しかし子育てが始まると様々な制約があり、また部内の配置転換もあり、チームの一員として患者さんとも関わることができなくなりました。CDEJ として「自分にしかできない仕事がしたい！ 大好きな糖尿病で活動を続けたい！ でも子供たちも小さいしどうしたらよいか？」と、考える日々が続きました。そこで自分のペースで行えることはないかと考えました。感染症関連の仕事で医学博士を取得したこともあ



り、子育ての隙間時間で、糖尿病と感染症というテーマに取り組み、論文(総説)という形でまとめてきました。また所属する糖尿病分科会では、小児糖尿病サマーキャンプなど様々なテーマでの学会発表を継続しています。さらに病院薬剤師会や県薬剤師会、地域の薬剤師会などと協力し糖尿病領域に関わる勉強会(注射手技の会、症例検討会など)を開催しています。同僚や後輩、一緒に資格を取得した看護師さんたちから、薬のことや器材のことなど様々な相談を受けています。これからも「自分にしかできない仕事」を継続していきたいと思っています。

血糖変動を患者さんと いっしょに振り返りながら

工藤礼子

市立札幌病院（北海道）

第4回（2003年度）CDEJ取得



現在、チーム医療内でのCDEJとして、糖尿病療養指導関連の勉強会を企画し、時にはその講師としてCDEJのためのみならず院内や院外その他職種に向けた研修会を主に行っています。当院に勤め始めた時から既に教育入院患者さん向けの糖尿病教室があり、私も関わるようになったことで、患者さんから質問されることは、主に血糖値を下げるための食事内容の疑問や運動のタイミングであり、知識不足で答えられなかったことがCDEJ取得の動機です。CDEJ取得後は、幅広い知識と患者さんの背景も考慮した指導が必要だ



と実感しました。以前は、ただ検査項目についての知識を伝えるだけでしたが、患者さんと一緒に血糖変動について振り返るようになり、一緒に原因を探り、血糖変動の改善に繋がっていくようになりました。活躍する場は医療機関のみならず、地域でも必要とされるようになり、幅広い知識をもって血糖変動の改善にお役に立てる臨床検査技師のCDEJ誕生を楽しみにしています。

新しい知識を吸収して連携を

幸田早貴

済生会川口総合病院 臨床検査科（埼玉県）

第17回（2016年度）CDEJ取得



私は現在、主に糖尿病教室にて糖尿病や合併症の検査についての説明や、SMBGの指導を通して患者さんに関わっています。患者さんと関

わる中で、糖尿病について様々な質問を受けることが多く、臨床検査の分野だけでなく食事や薬など幅広い知識を持ちたいと思い、CDEJを取得しました。CDEJを取得してからは、患者さんの背景や心理面を考慮したり、他職種との連携がスムーズになったと感じています。また、私は臨床検査業務を兼務しているため、外来や病棟に滞在することが出来ず、患者さんと継続的に関わるのが難しいことから、短時間の糖尿病教室やSMBGの指導の中で、「はい」「いいえ」では答えられない質問を増やし、患者さん自身の言葉として疑問に感じていることや、不安



なことなど、どんなことでも話してもらえるように工夫しています。

今後もCDEJとして日々新しい知識を吸収しながら、他職種と連携し、多くの患者さんに関わる時間を大切にしていきたいと思っています。

院内から地域医療へと 広がった活動の場

池永千寿子

社会医療法人製鉄記念八幡病院
リハビリテーション部（福岡県）

第9回（2008年度）CDEJ 取得



CDEJ 取得の動機は糖尿病患者さんに関わる理学療法士として「一流」になれると思ったからです。理学

療法士の肩書きだけでなく、医療従事者に広く知られる資格を持つことで自分をブランド化して患者さんや同僚の信用を得られ仕事がしやすくなるだろうと、浅薄な考えでした。CDEJ 取得後、院内の糖尿病患者さんだけでなく、院外のイベントやスタッフに携わる機会もいただくにつれ、考えの甘さや不勉強を反省しました。

現在、院内では糖尿病教育入院の糖尿病患者さんに理学療法士の立場で関わり、主に運動療法の効率的な方法と継続の秘訣をお伝えし、家族も含めた環境調整などに携わっています。院外では糖尿病発症者だけで



なく予防事業にもお声かけいただくようになりました。そしてソウルフードはタラコや焼き鳥、街も海も山もある福岡県で、どのような運動を提案すれば継続しやすいのかを地域のCDEJ理学療法士と模索中です。

今は「一流」を目指して研鑽を重ねたいです。

患者さんに寄り添って気づいた 療養指導チームの重要性

瀬川翔太

岩手県立軽米病院
リハビリテーション技術科（岩手県）

第18回（2017年度）CDEJ 取得



当院は岩手県の北端に位置する病院で、糖尿病をはじめとした生活習慣病の治療や予防活動に力を入れて

おり、CDEJ も多く在籍しています。教育入院の方への運動指導や今年度からは外来通院患者さんへの個別運動指導にも取り組み始めています。

私がCDEJを取得した動機は、現状を受け入れることのできない若年1型糖尿病患者さんに対し、寄り添い、信頼関係を築いていく上司の姿に感銘を受け、糖尿病療養指導に興味を持ったことがきっかけです。個々のライフスタイルに合わせた指導や、やる気を引き出すためにどんな言葉を掛けたらよいかなど日々考えながら指導や支援を行っております。また、当院がある二戸圏域の高



齢化率は39.2%（2019年度）となっており、自己管理が難しい高齢糖尿病患者さんに関わることが多く、家族を含めた療養指導チームでの関わりが重要となっています。

今後も自己研鑽に励み、信頼されるCDEJ・理学療法士を目指していきたいと思っております。

石塚達夫

岐阜市民病院（岐阜県）



変動する社会そして 新たな糖尿病診療に柔軟に対応しながら CDEJ の新境地を開け

2020 年は新型コロナウイルスのパンデミックにより、緊急事態宣言が発せられ、日常生活の制限のみならず、外来入院診療が制限されています。そのなかで、糖尿病診療にも影響を及ぼしていることにお気付きでしょう。

生活習慣病、特に糖尿病、高血圧は新型コロナウイルスのターゲットになりやすく、重症化することがわかっています。糖尿病患者の命を守るために

なにをすべきかという重要な課題があります。この厳しい情勢の中でも新たな糖尿病診療の進歩は報告されています。既に、欧米では糖尿病診療のガイドラインが明らかにされて、いろいろな合併症、特に心血管系合併症を持った糖尿病患者への指針に加えて患者の社会的経済的背景にも配慮して治療する指針も示されています。

また、持続グルコースモニタリング

から小型人工膵とも言えるインスリン注入ポンプまで実用化されています。しかし、これを一つ一つ実現するには CDEJ の力が必要なことは明らかです。

皆さん、臆することなく前を向って行きましょう。医療スタッフの中で従来培ってきた CDEJ の力を遺憾なく発揮しようではありませんか。



四方賢一

岡山大学病院（岡山県）

常に向上している自分を 実感してください

CDEJ の誕生から 20 年の歳月が流れたことを思うと、大変感慨深いものがあります。この間に、糖尿病の治療薬やデバイスが急速に進歩し、チーム医療の重要性も広く認められるようになりました。この進歩に遅れないためには、CDEJ に認定されてからも日々の研鑽が必要になります。

私は、日本糖尿病療養指導士認定機

構で 3 つの委員会に携わりましたが、糖尿病医療の進歩とともに、CDEJ の知識やスキルも常に向上していることを実感しました。糖尿病医療の現場で、最新の知識と確かなスキルを持った CDEJ の療養支援があれば、患者さんは安心して療養を続けることが出来ます。

CDEJ が糖尿病療養の支えとなり、

患者さんの予後の改善につながれば、それは医療スタッフとしての大きな喜びであり、CDEJ の存在意義を示すことにもなるでしょう。

今後も、CDEJ の皆様が糖尿病診療の第一線で益々活躍されるとともに、その役割がさらに広く認知されることを願っています。

Voices
from
Doctor

患者さんの声



知識を得て「正しく恐れる」ことが大切

岩田高志さん

(岐阜県)

私は糖尿病を25年ほど前に指摘されました。知識もなかったので、治療も受けず放置していましたが、数年後には症状が酷くなったため、専門医の先生にかかるようになり、糖尿病がどんな病気であるのかを学び、治療を開始し、現在に至ります。この間、糖尿病

療養指導士である看護師、理学療法士などから指導していただく中で、知人の足の切断、合併症の悪化で亡くなる等の事例に出会いました。この方々に共通していたのは、糖尿病に対する認識が極めて甘く、治療を先延ばしにしていたことでした。血糖コントロールは

難航していますが、知識を得たことで「正しく恐れる」ことができるようになっています。惜しむらくは、予防の段階で糖尿病の怖さをしっかり認識できていたらと切に思っています。

Voices from Patient

当たり前な生活を提供してくれる、うしろだて



及川亮さん

(宮城県)

私は2歳で小児1型糖尿病と診断され今年で28年になります。

すでにSMBGや自己注射が日常として馴染んでいます。それでも安定したコントロールは大変難しく日々悪戦苦闘している毎日

です。

体調、食事、運動や季節の変化など少しのことが複雑に影響し、同じ対処で済むことはまずありません。

そんな日々のサポートをしてくださるCDEJの方々には非常に

助けられております。最新の医療情報や食事のちょっとしたアドバイスなど多岐にわたり支えてくださり、1型糖尿病である私に「当たり前な生活」を提供してくださっています。心から感謝いたします。

日頃、学習する CDEJ（日本糖尿病療養指導士）

Jスキルコースで学習

単位が取れる eラーニング



- ・あらかじめ収録された講義を、インターネットに接続したパソコンを使用し学習
- ・都合のよい時間に受講できるビデオ・オン・デマンド方式（体験版コースあり）
- ・次の3つを受講期間（開講から4カ月間）内に終わると「受講修了」となり、指定の単位（2群）が取得可能
 - ①講義の視聴
 - ②設問の解答
 - ③アンケート（コースレビュー）
- ・単位の取得状況は、CDEJマイページで確認可能

コースの詳細等、詳しくはWebサイトでご案内しています。

[CDEJ Jスキルコース](#)

で検索または右のQRコードからアクセスください。



CDEJ シンポジウムに参加

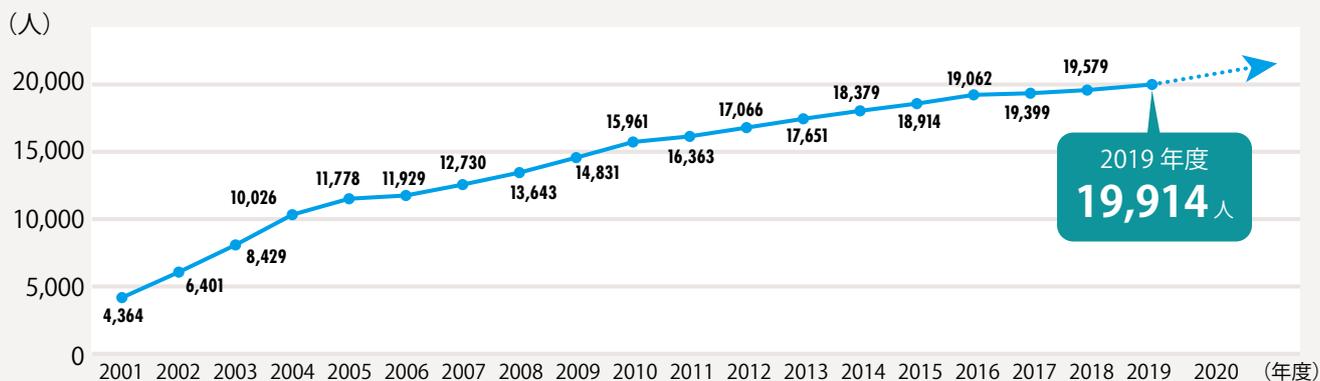
シンポジストは CDEJ と医師



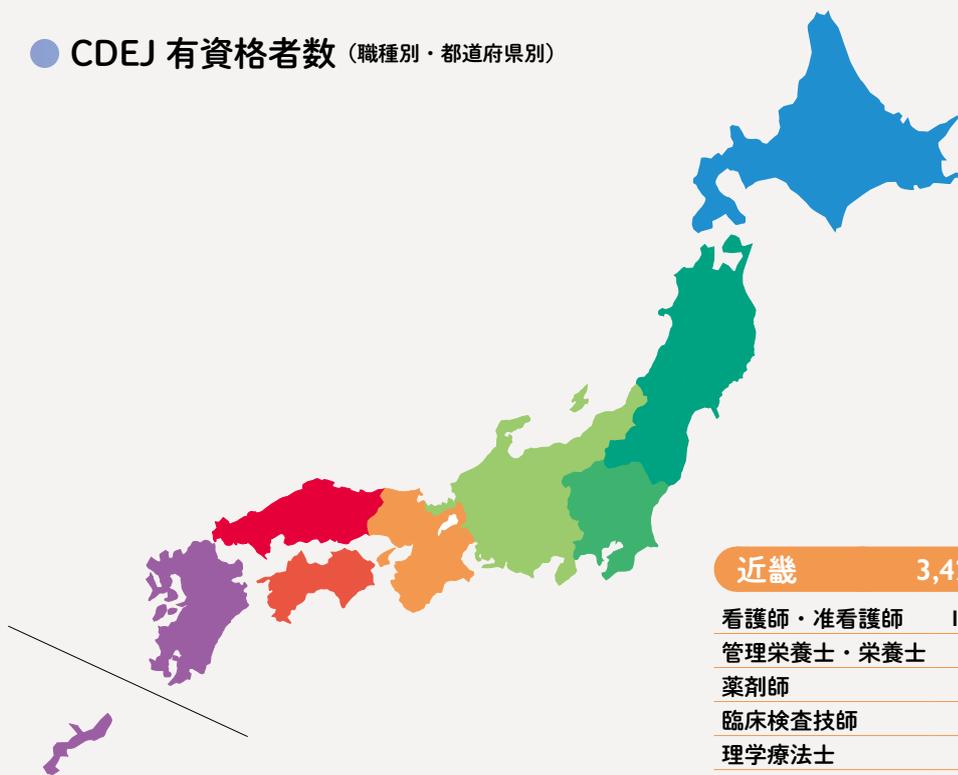
- ・毎年「日本糖尿病学会年次学術集会」の中で開催されるシンポジウム
- ・演者は医師の他、5職種のCDEJがメインテーマに沿って、日頃の活動を発表
最後に会場からの質問を受け、活気あふれる総合討論を行う
- ・毎回、CDEJの展望を描く語らいとなり、多方面から熱い期待が寄せられている

CDEJ 数の推移と CDEJ 有資格者数 (職種別・都道府県別)

● CDEJ 数の推移 (2019年7月8日現在)



● CDEJ 有資格者数 (職種別・都道府県別)



北海道 968

看護師・准看護師	499
管理栄養士・栄養士	235
薬剤師	121
臨床検査技師	69
理学療法士	44

東北 1,292

看護師・准看護師	686
管理栄養士・栄養士	326
薬剤師	169
臨床検査技師	76
理学療法士	35

近畿 3,420

看護師・准看護師	1,457
管理栄養士・栄養士	862
薬剤師	621
臨床検査技師	235
理学療法士	245

関東 6,503

看護師・准看護師	2,805
管理栄養士・栄養士	1,704
薬剤師	1,076
臨床検査技師	501
理学療法士	417

九州・沖縄 2,342

看護師・准看護師	1,146
管理栄養士・栄養士	574
薬剤師	319
臨床検査技師	141
理学療法士	162

四国 886

看護師・准看護師	413
管理栄養士・栄養士	197
薬剤師	108
臨床検査技師	70
理学療法士	98

中国 1,354

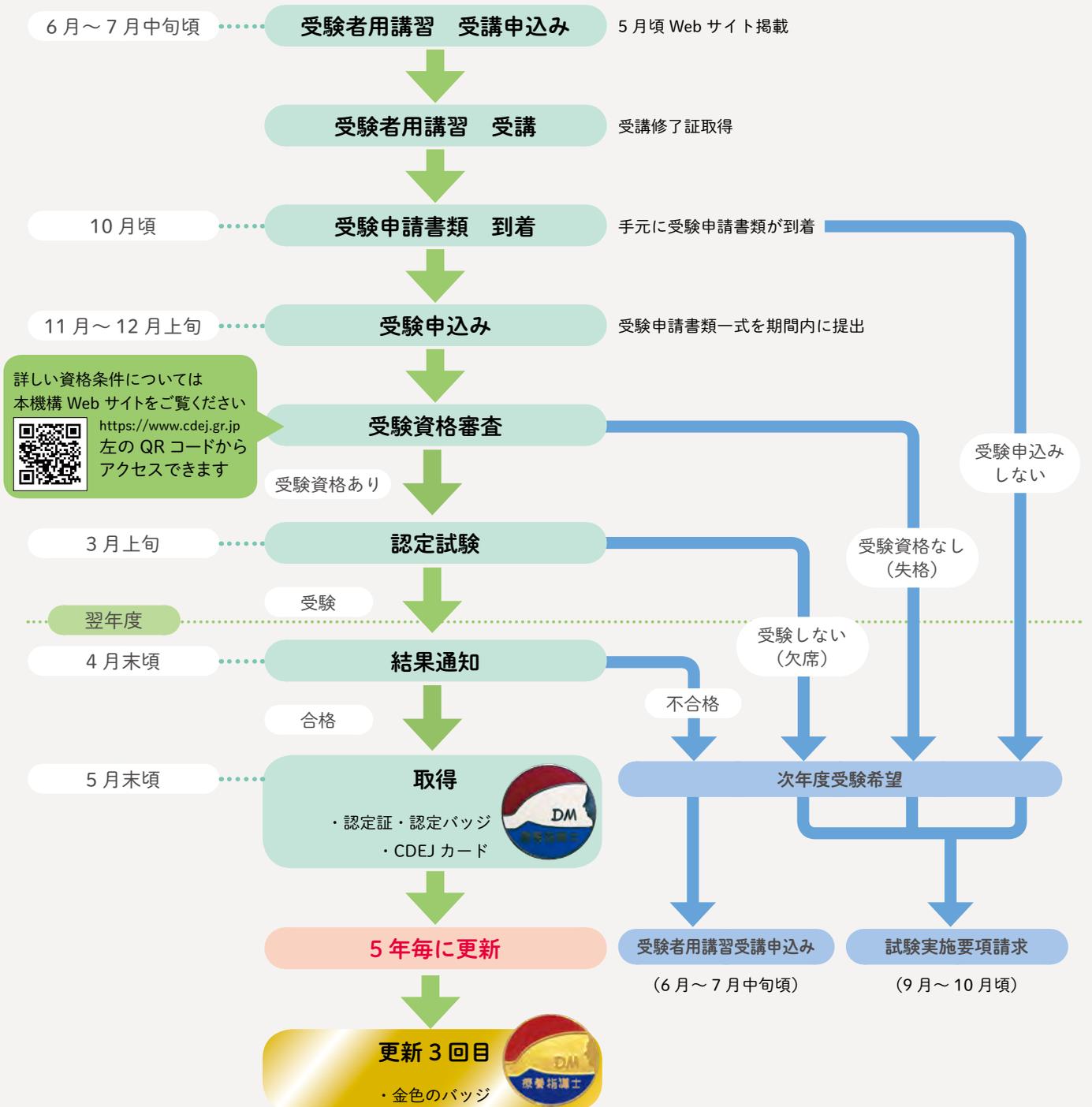
看護師・准看護師	584
管理栄養士・栄養士	342
薬剤師	239
臨床検査技師	99
理学療法士	90

中部 3,149

看護師・准看護師	1,444
管理栄養士・栄養士	737
薬剤師	462
臨床検査技師	308
理学療法士	198

CDEJ（日本糖尿病療養指導士）になるには 資格取得の手続き

- 「看護師」「管理栄養士」「薬剤師」「臨床検査技師」「理学療法士」いずれかの資格を有していることが必要です。
※まずは受験者用講習のお申し込みが必須となります。



療養指導のエキスパートを目指して！！

CDEJ 療養指導セミナー / 交流集会



日本糖尿病療養指導学術集会



CDEJ 認定機構 / 相談窓口



資格取得 / 認定試験



CDEJ 療養指導セミナー / 交流集会

- ・「日本糖尿病学会年次学術集会」で開催する CDEJ を中心とした交流集会
テーマに沿ったグループ討議に、経験豊かな CDEJ がファシリテーターとして参加
- ・各グループの結果発表後、特別講師による総括講演あり

日本糖尿病療養指導学術集会

- ・日本糖尿病協会との共催により毎年開催
- ・CDEJ と LCDE が合同で、糖尿病診療のチーム医療はいかにあるべきか等々、各職種がお互いを深く理解し合い、協働・連携について熱く語る

CDEJ 認定機構 / 相談窓口

- ・「日本糖尿病学会」「日本糖尿病教育・看護学会」「日本病態栄養学会」等の年次学術集会に相談窓口を設置
- ・CDEJ の方はもちろん、医療関係者の皆様のご相談・ご意見をお伺いしています

一般社団法人

日本糖尿病療養指導士認定機構について

Certification Board for Diabetes Educators in Japan ; CBDEJ

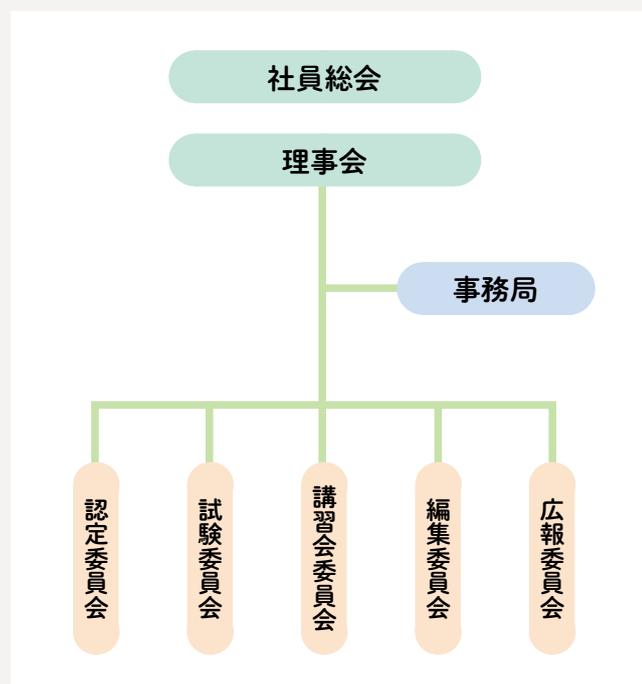
多くの糖尿病患者に対し、専門医の数は限られ、高度かつ良質な糖尿病診療の均てん化を図るためには、専門医と非専門医による「病診連携」と共に、コメディカル・スタッフ（医療法の下で療養指導チームの一員として質の保証された）との「チーム医療」の体制作りが不可欠です。

そのため、チーム医療の体制作りの一環として、「日本糖尿病学会」「日本糖尿病教育・看護学会」「日本病態栄養学会」の3学会が協力し、2000年2月、「日本糖尿病療養指導士認定機構」が設立されました。略称は「CDEJ 認定機構」です。

● 組織

社員は、「日本糖尿病学会」「日本糖尿病教育・看護学会」「日本病態栄養学会」。

役員・委員は上記3学会から選出。



● 受験資格と認定更新について

詳細は本機構のWebサイトをご覧ください。

<https://www.cdej.gr.jp>



● 主な事業

1. 講習会の開催

- ・「受験者用講習」(10月～11月、eラーニングで開催)
- ・「認定更新者用講習会」(11月～2月、全国数都市とeラーニングで開催)

2. 認定試験の実施

- ・年1回認定試験を実施(3月、全国7都市)

3. ガイドブックの発行

- ・「糖尿病療養指導ガイドブック」(毎年発行)

4. 認定証の交付

- ・認定試験に合格した方・更新を認められた方に「日本糖尿病療養指導士」の認定証を交付

5. 認定資格の審査

- ・認定試験受験資格審査、認定更新審査(認定期間の終了時に認定更新を希望する「日本糖尿病療養指導士」に対し認定更新審査を行う)、認定期間延長審査など

6. 広報活動

- ・CDEJ News Letterの発行(年4回)
- ・Webサイトの運営、パンフレットの発行、ポスターの作成など

機構 Web サイト



CDEJ News Letter



発行：一般社団法人日本糖尿病療養指導士認定機構
〒113-0033 東京都文京区本郷2-30-7 本郷T&Sビル3階
TEL：03-3815-1481 FAX：03-3815-1487

<https://www.cdej.gr.jp>

